

深刻な鳥獣害被害の対策について

曾爾村農業委員会

1. 曾爾村の農業の概要

曾爾村は、奈良県の東北端に位置し、周りを山林で囲まれた山間地域である。

農業は、水稲と高原冷涼多雨な気候を利用した施設園芸野菜（ホウレンソウ、トマト）の栽培が盛んである。ところが最近、有害鳥獣の中でも特にシカ、イノシシが人家にまで侵出するようになり、農作物に大きな被害を与えているのが現状である。（現状被害額約400万円、6 ha）

2. 農業委員会の取り組み

①具体的な取り組み内容

曾爾村農業委員会では、あまりに増えすぎる有害鳥獣に対して曾爾村鳥獣害防止対策協議会と一体となって、定期的に鳥獣害対策の合同会議を開催している。また、併せて農業委員が担当地区での被害防止対策を積極的に進めている。平成21年度掛向掛地区において、農地全体を電気柵（W=1,000m）で囲い、シカの被害防止に成果を上げている。また、葛相輪地区では、農地全体を金網柵（W=500m）で囲ったところ、イノシシ、シカの被害はなくなった。平成22年度においても特に有害鳥獣の被害が多い地区を優先的に選定し、計5地区において金網柵の設置を予定している。



②取り組みに当たっての課題

有害鳥獣の被害で農業意欲が減退し、耕作放棄地が増加し、村の農業振興に多大な影響を及ぼしている。

③課題への対応方策

村の農地を有害鳥獣から守るべく、村全域に柵の設置を行い、有効農地を少しでも活用するため、農業委員会においても微力ながら全面的に協力していきたい。

